



TITLE:

学術雑誌総合目録自然科学欧文編
,1975年版刊行の準備すすむ

AUTHOR(S):

CITATION:

学術雑誌総合目録自然科学欧文編,1975年版刊行の準備すすむ. 静脩
1974, 11(1): 5-6

ISSUE DATE:

1974-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36722>

RIGHT:

(いずれも冊数比)であるがこれは<表1>の百分比でも解るように、法学部学生、工学部学生の利用が多いためであり、<図1>とも同一の内容である。庫内図書は、閲覧・貸出ともに4門が第1位で25%を上回っている。閲覧では10門18.5%(雑誌はここに含む)、貸出では5門17.4%が第2位である(閲覧では5門は第3位18.1%)。配架冊数をみると16,066冊のうち、2門20.7%、6門19.4%(49年3月末)と計41.1%も占める蔵書構成であること、また、庫内図書の蔵書構成が4門18%、5門14%(いずれも推定)で、2部門だけで30%を超えていることなどからみて、当然の結果ながら構書構成と利用とが密接な関係にあることが窺える。

<図1>の、開架図書の利用比では法学部

<図1-1>と工学部<図1-3>の専門課程では、専攻領域の主題が50%前後を占め、それ以外の領域の大部分が5%以下という利用差となっている。法学部で「雑誌」が23%も占めているのは、開架図書には法学関係の雑誌のバックナンバーを配架(他の雑誌は新着号のみ配架)しているためである。これに対して、教養課程の学生の利用<図1-2>は6門が比較的利用が多いだけで、他は平均した利用率を示していることは、教養課程と専門課程の利用する図書の違いをはっきりさせている。本館では、利用者別と分類別統計を切り離した統計表となっているため、前にも述べたとおり<図1>は今回だけの抽出調査によってつかめたもので、こんごは利用統計表を検討する必要がある。

学術雑誌総合目録自然科学欧文編 1975年版刊行の準備すすむ

全国の大学や主要研究機関等が所蔵する自然科学系の欧文雑誌を網羅する総合目録が、文部省監修、(財)国際医学情報センター編集、(株)紀伊国屋書店の製作によって、来年3月に刊行される予定である。この種の目録としては、すでに1966年版があるが、約10年ぶりの企画である。年毎に著しく増大してゆく学術雑誌の所蔵目録を、これまでのように、手作業で作成しては、出来上るまでに何年もの歳月を必要とし、内容の新鮮さが全く失われてしまう。このようなことをなくするために、今回は画期的な試みとして、電子計算機による編集・製作という方式がとられる。こうすることによって、作業の迅速化・合理化を計ると同時に、将来の発展にそなえて基礎づくりをするという意図もある。今年始めから、編集担当機関による予備版の作成、各所蔵機関からのデータ提出について、

編集、製作と進み、今年度中に刊行を済ませるという計画である。なお将来は、今回磁気テープの形で保存されるデータ・ベースを基礎に、各館からの追加的データ提出に基づき、1年ごとに補遺版を、4年ごとに改訂版を刊行する予定であると聞く。

7月末に本学にも所蔵データ提出の依頼がきている。約33,000タイトルを包含する予備版(2分冊)と照合しながら、本学雑誌の所蔵事項をデータ記入用紙に転記して10月末日までに提出するべく、洋書目録掛を中心に作業をすすめている。「京都大学欧文雑誌総合目録自然科学編1972年版」に記載されている雑誌と、同目録作成以後、部局から報告を受けた若干の変更分をあわせて約9,000タイトル、20,000件を報告することにした。何分ぼう大な量であるうえに、所蔵巻号等の正確を期するために、再調査を要するものに

再三遭遇するので、作業ははかばかしくは進まない。目下全量の4分の1といったところであらうか。

再調査にあたっては、各所蔵部局図書室の

協力をいただき、厚くお礼申し上げると同時に、今後とも惜しめないご協力をお願いする次第です。(洋書目録掛)

京都大学和文雑誌総合目録の編集作業

本学所蔵の雑誌総合目録の一環として、本年度は和文雑誌総合目録を刊行することとなった。これはさきに刊行された1967年版ならびに補遺の改訂版である。

旧版刊行後の異動と新規架蔵雑誌について5月以来各部局図書室に、昭和49年3月31日現在で調査をお願いしていたが、このほど

報告の提出が完了した。予想以上に異動訂正や新規雑誌が多く、編集にかなりの時間がかかりそうであるが、11月印刷に付すことを目標にして目下編集に努力している。編集、印刷、校正などが順調に進行すれば、来春3月には刊行される予定である。

近畿地区国公立大学図書館協議会

1. 研究集会活動

8月26日(月)午後1時30分より、新築成った京都府立大図書館を会場にして、本年度第1回の施設に関する研究集会を開催した。京都府大図書館の設計は、いわゆるモデュラ・プランニングを基本としており、その点で、将来における内部空間の互換性が考慮されていることと、身障者に対する細かい配慮が、とくに興味深い。当日は80名近い参加者があり、本学からも21名の参加者があった。

9月6日(金)午後1時30分より、楽友会館で、「アメリカの大学図書館における相互協力について」と題して、大阪大学図書館田中久文氏の在外研修報告を中心とした研究集会を開催した。2時間にわたって、田中氏よりアメリカの最新の実情について報告があつ

た後、大阪府大堀事務長の司会により質疑討論を行なった。約60名の出席があり、本学からの出席者は26名であった。

2. 委員会活動

企画委員会は、9月6日(金)10時半から、楽友会館で本年度第2回目の会合を開き、今後の研究集会計画について検討した。その結果、10月18日(金)には、主題別研究集会の本年度の第1回として、「理工系図書館における図書館資料の収集ならびに保存」について、京都芸芸繊維大学で開催する。11月には、施設研究集会の第2回目を兵庫県立図書館で開催することになった。

また、参考図書委員会は8月28日(水)に大阪女子大で、図書館統計委は9月3日(火)に和歌山大学で、それぞれ開催された。